

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平7-28903

(43)公開日 平成7年(1995)5月30日

(51)Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 1 B	9/12	E		
	9/02	F		
A 6 1 F	5/37	Z 7108-4C		
	5/44	Z 7108-4C		

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 実願平5-63067

(22)出願日 平成5年(1993)10月29日

(71)出願人 593213973

株式会社サニット

山梨県甲府市飯田5-4-1

(72)考案者 南山 秀樹

山梨県北巨摩郡双葉町竜地798-141

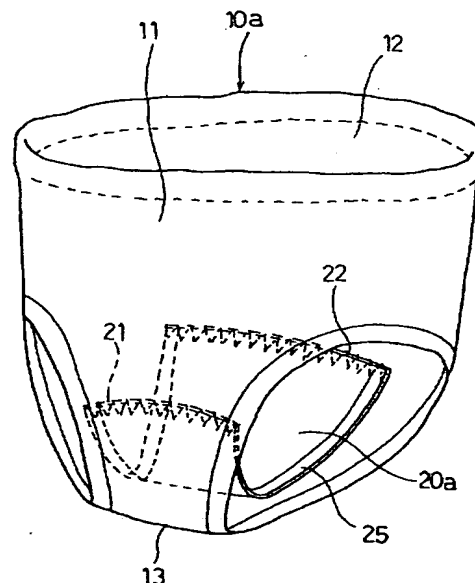
(74)代理人 弁理士 福井 陽一

(54)【考案の名称】 失禁パンツ

(57)【要約】

【目的】 外観上吸水部材が見えにくくて他人に気づかれる心配がなく、横漏れも生じにくい上に、風通しがよくて洗濯しても乾きやすく、嵩張らない失禁パンツを提供する。

【構成】 肌側基布23と吸水布24と防水フィルム25とを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを装着した吸水部材20aを有し、この吸水部材の両端部21、22をパンツ本体10aの前部11と後部12とに縫着する。また、肌側基布と吸水布と防水フィルムとを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを装着した吸水部材20bを有し、この吸水部材をパンツ本体10bに着脱可能とする。そして、肌側基布より横幅を狭くした吸水布28、29を有している。さらに、吸水部材の中央部から後部に亘り、肌側基布と吸水布との間に防水フィルムを積層する。



1

2

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 肌側基布と吸水布と防水フィルムとを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着した吸水部材を有し、この吸水部材の両端部をパンツ本体の前部と後部とに縫着したことを特徴とする失禁パンツ。

【請求項2】 肌側基布と吸水布と防水フィルムとを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着した吸水部材を有し、この吸水部材をパンツ本体に着脱可能としたことを特徴とする失禁パンツ。

【請求項3】 肌側基布より横幅を狭くした吸水布を有することを特徴とする請求項1又は2記載の失禁パンツ。

【請求項4】 吸水部材の中央部から後部に亘り、肌側基布と吸水布との間に防水フィルムを積層させたことを特徴とする請求項1、2又は3記載の失禁パンツ。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係る失禁パンツの斜視図である。

【図2】 図1の縦断面図である。

【図3】 他の実施例の斜視図である。

【図4】 吸水部材の横断面図である。

【図5】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

【図6】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

【図7】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

【図8】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

【図9】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

【図10】 吸水部材の他の実施例の縦断面図である。

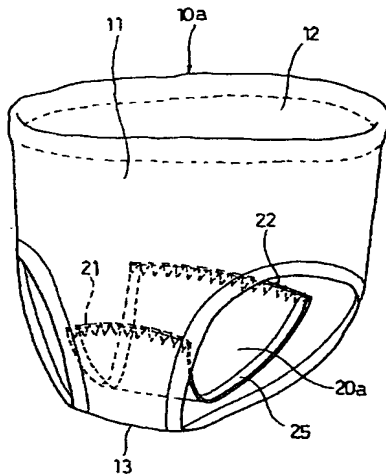
【図11】 図10に示す実施例の使用時における縦断面図である。

10 【図12】 吸水部材の他の実施例の横断面図である。

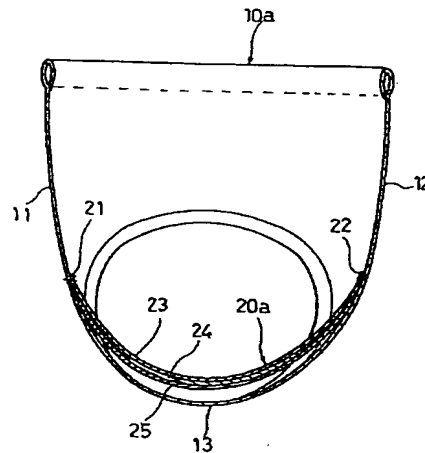
## 【符号の説明】

10a, 10b	パンツ本体
11	パンツ本体前部
12	パンツ本体後部
20a, 20b	吸水部材
21	吸水部材の前端縁部
22	吸水部材の後端縁部
23	肌側基布
24, 28, 29	吸水布
20 25, 30	防水フィルム

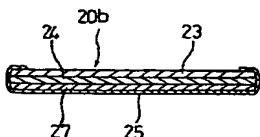
【図1】



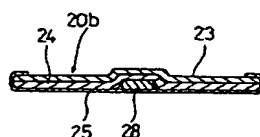
【図2】



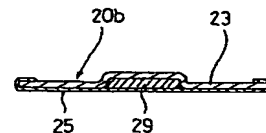
【図4】



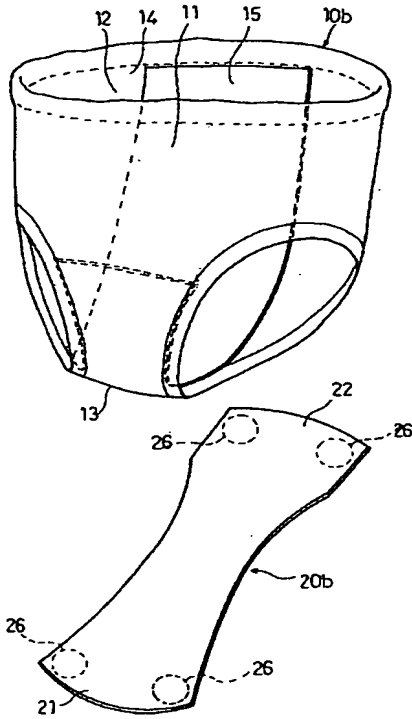
【図5】



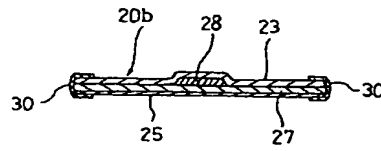
【図6】



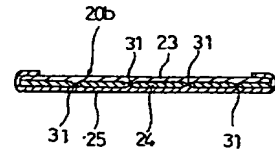
【図3】



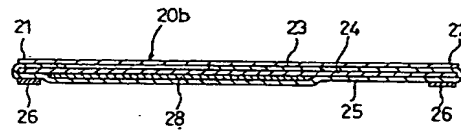
【図7】



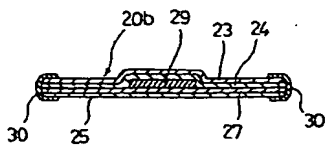
【図12】



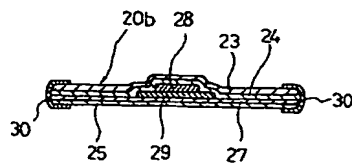
【図10】



【図8】



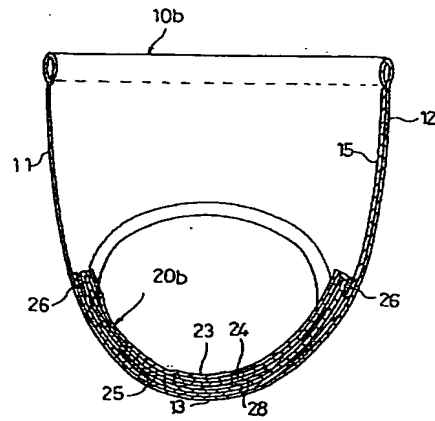
【図9】



(4)

実開平 7- 28903

【図 1 1】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、本人の意思に反して漏れてしまう失禁に悩む人のための失禁パンツに関するものである。

## 【0002】

## 【従来技術】

平成3年に実施された厚生省の調査によれば、尿失禁に悩む人は、在宅で生活している60歳以上の男性の10人に1人、女性では4人に1人いることが明らかになった。また、女性の尿失禁は、3割から5割もの人が体験するともいわれている。

ところで、従来提供されていた失禁パンツは、メッシュ布と吸水布と防水布とを積層して構成した吸水部を備え、この吸水部がパンツ本体の前部の前丈の下半部、クロッチ部、及び後部の後丈の下半部の全面に亘る形状を呈しており、吸水部の周縁部をパンツ本体内側の当該部に縫着したものであった。

## 【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

前記従来の失禁パンツにおいては、吸水部の周縁部をパンツ本体の股部全面に亘って縫着した構成であるので、旅行先などで下着姿になったときに、他人に気づかれるおそれがあった。

また、失禁した尿等は吸水部の縦方向（前後方向）よりも横方向へ広がりやすいが、前記吸水部は単にメッシュ布と吸水布と防水布とを積層した構造であるので、横漏れを生ずるという欠点もあった。

さらに、洗濯して屋外に干したりした場合にも、吸水部が露見して他人に気づかれるおそれがあり、かといって室内で干すと、パンツ本体の股部に縫着した吸水部が積層構造であるので乾きにくく、カビが生えたりするおそれがあり衛生的でなかった。

さらにまた、外出や旅行等において、失禁したときのために予備の失禁パンツを数枚用意しておく必要があるが、前記従来例によると嵩張るという欠点もあっ

た。

【0004】

本考案は、従来例におけるこのような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、外観上吸水部材が見えにくくて他人に気づかれる心配がなく、横漏れも生じにくい上に、風通しがよくて洗濯しても乾きやすく、しかも嵩張らない失禁パンツを提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本考案における失禁パンツは、肌側基布と吸水布と防水フィルムとを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着した吸水部材を有し、この吸水部材の両端部をパンツ本体の前部と後部とに縫着してある。

また、肌側基布と吸水布と防水フィルムとを積層すると共に、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着した吸水部材を有し、この吸水部材をパンツ本体に着脱可能としてある。

さらに、肌側基布より横幅を狭くした吸水布を有している。

さらにまた、吸水部材の中央部から後部に亘り、肌側基布と吸水布との間に防水フィルムを積層させてある。

【0006】

【作用】

失禁により漏出した尿等は、肌側基布を透過して、吸水布に吸収される。そして、吸水布には尿を透過させない防水フィルムをラミネートしてあるので、失禁した尿等が吸水部材より漏れることはない。また、吸水布に吸収された尿は横方向へ広がるが、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着してあるので、横漏れも生じない。

また、吸水部材はパンツ本体と密着しておらず、吸水部材の両端部のみがパンツ本体と縫着、あるいは吸水部材とパンツ本体とが着脱可能であるので、洗濯が容易であり且つ乾きやすい。

さらに、吸水部材の中央部から後部に亘り肌側基布と吸水布との間に防水フイ

ルムを積層させてあるので、着用時に吸水布に吸収された尿等が臀部に滲出してくることがなく、不快感がない。

【0007】

【実施例】

実施例について図面を参照して説明する。

本考案に係る失禁パンツは、パンツ本体と吸水部材を備えている。

図1は本考案に係る失禁パンツの第1実施例の斜視図、図2はその縦断面図である。

10aは、パンツ本体である。パンツ本体10aは、一般に使用されているパンツ（パンティ）と同じく伸縮性のある生地を使用すればよい。

【0008】

20aは、失禁した尿等を吸収する吸水部材である。

吸水部材20aは、長方形状、あるいは中央部の幅をパンツ本体10aのまた幅より若干狭くすると共に、長手方向の両端部の幅を中央部の幅よりやや広くした変形長方形状を呈するように形成してある。

かくして、パンツ本体10aの後部12に位置する吸水部材20aは、パンツ本体10aの前部11側から見えにくくしてあり、吸水部材20aが他人に気づかれないように構成してある。

【0009】

そして、吸水部材20aは、長手方向の両端部位である前端縁部21及び後端縁部22のみをパンツ本体10aの股部の内側に縫着してある。

即ち、図1に示すように、吸水部材20aの前端縁部21はパンツ本体10aの前部11の中央部に、後端縁部22はパンツ本体10aの後部12の中央部に夫々縫着してある。

【0010】

吸水部材20aは、人肌側よりパンツ本体10a側に向けて、肌側基布23と吸水布24と防水フィルム25とを積層して構成してある。そして、肌側基布23の上面の側縁部には、横漏れを防止するために、防水フィルム25を取着してある。

この肌側基布 23 は、失禁パンツを着用したときに肌に触れる部位に当たるものであり、失禁した尿等を透過しやすいように、メッシュ生地又はかの子生地等のものを使用する。

【0011】

吸水布 24 は、失禁した尿等を吸収する部位であり、表面積を大きくして吸水力を高めるために、パイル生地のものや不織布等を使用する。

また、吸水布 24 には、消臭・抗菌作用を持たせるのが好ましい。それには、例えば、パイル生地に 2 ミクロン以下に粉碎した竹の微粉末を一面に接着したものを使用するなどすればよい。

【0012】

防水フィルム 25 は、吸水布 24 に吸収された尿等がパンツ本体 10a に滲出しないようにする部位であり、尿等を透過させない性質の合成樹脂フィルム、例えばポリエチレンやポリ塩化ビニル等により構成してある。

そして、失禁した尿等が横漏れを生じないようにするために、防水フィルム 25 の外周縁部は、肌側基布 23 の周縁部に折り返して取着してある。

また、失禁した尿等の吸収力を高めるために、防水フィルム 25 には、吸水布 24 側に吸水布 24 と同形状の吸水補助布を接着したものであってもよい。この吸水補助布としては、パイル生地等を使用すればよい。

【0013】

図 3 ないし図 12 は本考案に係る失禁パンツの他の実施例を示すものであり、これらの実施例においては、吸水部材 20b をパンツ本体 10b に着脱可能に構成してある。

即ち、パンツ本体 10b には、図 3 に示すように、その前部 11 の前丈の下半部からクロッチ部 13、後部 12 の腰天部 14 の中央部にかけて、帯状に肌を刺激しない面ファスナー様のパイル生地 15 を縫着してある。そして、パンツ本体 10b 側の吸水部材 20b の前端縁部 21 及び後端縁部 22 には、前記パイル生地 15 と着脱可能な面ファスナー 26 を取り付けてある。なお、パンツ本体 10b は、パンツ本体 10a と同様に伸縮性のある生地を使用すればよい。

かく構成することにより、吸水部材 20b をパンツ本体 10b の所望の位置に



取り付けることができると共に、使用済みの吸水部材 20b のみを個別に洗濯することができる。

【0014】

吸水部材 20b は、長方形状、あるいは図 3 に示すように、中央部の幅をパンツ本体 10b のまた幅より若干狭くすると共に、長手方向の両端部の幅を中央部の幅よりやや広くして変形長方形状を呈するように形成してある。

図 4 に示す吸水部材 20b は、例えば少量 (5~10cc) の失禁用のものであり、肌側基布 23 と吸水布 24 とを積層したものに、吸水布 24 側に吸水布 24 と同形状のパイル生地等より成る吸水補助布 27 を取着した防水フィルム 25 を積層し、更に肌側基布 23 の上面側縁部にまで亘ってこの防水フィルム 25 の周縁部でラミネートした構造のものである。

【0015】

図 5 ないし図 7 に示す吸水部材 20b は、図 4 の実施例より失禁量の多い、例えば 10~20cc 程度の失禁用のものである。

図 5 に示す吸水部材 20b は、肌側基布 23 と吸水布 24 を積層すると共に、パンツ本体 10b 側の吸水布 24 の中央部に長手方向に、肌側基布 23 より横幅を狭くした帯状の吸水布 28 を積層し、これらを防水フィルム 25 で肌側基布 23 の上面側縁部にまで亘ってラミネートした構造のものである。

この帯状の吸水布 28 は、失禁した尿等の吸収力をより高めるためのものであり、不織布等の素材を使用すればよい。この吸水布 28 を設けることにより、図 4 の実施例のものに比し、失禁量の多い人にも対応できる失禁パンツを提供することができる。

【0016】

図 6 に示す吸水部材 20b は、パンツ本体 10b 側の肌側基布 23 の中央部に長手方向に、肌側基布 23 より横幅を狭くした帯状の吸水布 29 を積層し、これらを防水フィルム 25 で肌側基布 23 の上面側縁部にまで亘ってラミネートした構造のものである。この実施例における帯状の吸水布 29 は、吸水力を多く持たせるために、図 5 に示した吸水布 28 よりも幅広に構成すればよい。

図 7 に示す吸水部材 20b は、パンツ本体 10b 側の肌側基布 23 の中央部に

、長手方向に帯状の吸水布 28 を積層すると共に、吸水布 28 側に肌側基布 23 と同形状のバイル生地等より成る吸水補助布 27 を取着した防水フィルム 25 を積層し、この吸水部材 20b の上下両面の側縁部を他の防水フィルム 30 でラミネートした構造のものである。

【0017】

図 8 に示す吸水部材 20b は、図 5 ないし図 7 の実施例より失禁量の多い、例えば 20 ～ 30 cc 程度の失禁用のものである。

この吸水部材 20b は、肌側基布 23 と吸水布 24 を積層すると共に、パンツ本体 10b 側の吸水布 24 の中央部に長手方向に帯状の吸水布 29 を積層し、吸水布 24、29 側に吸水布 24 と同形状のバイル生地等より成る吸水補助布 27 を取着した防水フィルム 25 を積層し、この吸水部材 20b の上下両面の側縁部を他の防水フィルム 30 でラミネートした構造のものである。

【0018】

図 9 に示す吸水部材 20b は、図 8 の実施例より失禁量の多い、例えば 30 ～ 40 cc 程度の失禁用のものである。

この吸水部材 20b は、肌側基布 23 と吸水布 24 を積層すると共に、パンツ本体 10b 側の吸水布 24 の中央部に長手方向に帯状の吸水布 28、29 を積層し、吸水布 24、29 側に吸水布 24 と同形状のバイル生地等より成る吸水補助布 27 を取着した防水フィルム 25 を積層し、この吸水部材 20b の上下両面の側縁部を他の防水フィルム 30 でラミネートした構造のものである。

【0019】

図 10 に示す吸水部材 20b は、着用時に吸水布 24 に吸収された尿等が臀部に滲出してくる不快感を解消するためのものである。

この吸水部材 20b は、吸水布 24 と吸水布 28 を積層すると共に、パンツ本体 10b 側より防水フィルム 25 を積層し、この防水フィルム 25 の前端部を吸水布 24 の上面前端縁部に折り返すと共に、防水フィルム 25 の後端部を吸水布 24 の上面後端縁部より中央部に亘って折り返し、その上部に肌側基布 23 を積層した構造のものである。

かくすると、図 11 に示すように、失禁した尿等は肌側基布 23 を透過して吸

水布 24, 28 に吸収されてパンツ本体 10b の後部 12 側に浸透するが、臀部に当たる部位に防水フィルム 25 を介在させてあるので、肌側基布 23 に滲出してくることがない。

【0020】

図 12 に示す吸水部材 20b は、失禁した尿等の横漏れをより有効に防止しようとするものである。

この吸水部材 20b は、肌側基布 23 と吸水布 24 と防水フィルム 25 を積層すると共に、この防水フィルム 25 の周縁部で肌側基布 23 の上面側縁部をラミネートしてある。そして、吸水布 24 には、長手方向に沿って平行にミシン目 31 を加えてあり、吸水布 24 が横方向に粗密とした構造にしてあり、失禁した尿等の横方向の浸透を行いにくくしてある。

【0021】

失禁により漏出した尿等は、肌側基布 23 を透過して、吸水布 24 に吸収される。そして、吸水布 24 に吸収された尿等はこれを透過させない防水フィルム 25 に遮られ、失禁した尿等が吸水部材 20a, 20b より漏れることはない。

また、吸水布 24 に吸収された尿は横方向へ広がるが、肌側基布 23 の上面側縁部にも防水フィルム 25 を取着してあるので、横漏れも生じない。

また、図 1 及び図 2 に示す実施例においては、吸水部材 20a はパンツ本体 10a と密着しておらず、吸水部材 20a の前後両端縁部 21, 22 のみをパンツ本体 10a に縫着してあるので、洗濯しても風通しがよく乾きやすい。

また、図 3 ないし図 12 に示す実施例においては、吸水部材 20b がパンツ本体 10b と着脱可能なので、吸水部材 20b のみの洗濯が可能であり、外出や旅行等において、予備の吸水部材 20b を数枚用意しておけばよく、嵩張ることがない。そして、使用に際しても、吸水部材 20b をパンツ本体 10b の所望の部位に取り付けることができ、着用者の使い勝手がよい。また、失禁量に応じた吸水部材 20b を提供することもできる。

さらに、吸水部材 20b の中央部から後部に亘り肌側基布 23 と吸水布 24 との間に防水フィルム 25 を積層したものにあつては、着用時に吸水布 24 に吸収された尿等が臀部に滲出してくることがなく、不快感がない。

なお、本考案に係る失禁パンツは上述した実施例に限定されるものではなく、図4ないし図12に示す吸水部材20bの積層構造を図1及び図2に示す実施例においても適用できるなど、本考案の要旨を逸脱しない範囲で種々変形実施可能であることは勿論である。

【0022】

【考案の効果】

本考案は、上述のとおり構成されており、吸水部材を長形状あるいは変形長形状とすることにより、吸水部材がパンツ本体の前部から見にくく、他人に気づかれにくい。

そして、肌側基布の上面側縁部に防水フィルムを取着してあるので、吸水布に吸収された尿は横方向へ広がっても横漏れを生じない。

また、吸水部材の前後両端縁部のみをパンツ本体に縫着したものにあっては、吸収部材はパンツ本体と密着していないので、洗濯しても風通しがよく、乾きやすい。

さらに、吸水部材をパンツ本体に着脱可能としたものにあっては、汚れた吸水部材のみを洗濯することができると共に、外出や旅行等において、予備の吸水部材だけを数枚用意しておけばよく、嵩張ることがない。そして、使用に際しても、吸水部材をパンツ本体の所望の部位に取り付けることができ、着用者にとって使い勝手がよい。

また、吸水部材の吸収力を異ならしめることにより、失禁量に応じた吸水部材を提供することができる。

さらにまた、吸水部材の中央部から後部に亘り肌側基布と吸水布との間に防水フィルムを積層することにより、着用時に吸水布に吸収された尿等が臀部に滲出してくることがなく、不快感がない。

また、パンツ本体の股部に吸水部材を介在させる以外は、一般の下着とほとんど同じであり、着用中の違和感もない。